

多摩市立図書館本館 第10回へなそうるのへや企画展示

令和3年10月5日-12月20日

渡辺茂男と多摩市の50年

～未来に続け緑の種～



『もりのへなそうる』生みの親、渡辺茂男さんの経歴とともに
令和3年11月1日に市制施行50周年を迎える多摩市を
振り返ります。



多摩市が誕生するまで

関戸、連光寺、一ノ宮、貝取、乞田、落合、寺方、和田の8村と百草・落川両村の飛び地が合併し、明治22(1889)年4月1日に多摩村は生まれました。大正14年(1925年)には、京王線関戸駅(現在の京王線聖蹟桜ヶ丘駅)が開通、昭和12(1937)年5月に聖蹟桜ヶ丘駅と改称します。村内唯一の駅は、都心方面の玄関口として発展しました。多摩村は都心に近く、広大な未開発地が残されていたため、昭和30年代から宅地開発が進められます。農業以外の産業に従事する人口が増加し、昭和39(1964)年4月1日に町制施行し多摩町となります。同年10月1日人口は1万4239人¹でした。

昭和40(1965)年には多摩ニュータウン開発事業が決定します。ところが、開発計画と事業の進め方や方向と農業経営の継続を望む声との間で用地買収は難航しました。昭和41(1966)年になり多摩丘陵北西部約3000ヘクタールを対象とした大規模な宅地開発つまり多摩ニュータウンの基盤設備がスタートし、昭和46(1971)年3月に、多摩ニュータウン第一次入居(現在の諏訪・永山地区)が開始されます。

昭和46(1971)年11月1日に多摩市は誕生します。同年10月1日人口は4万4311人¹でした。

¹ 『統計たま 令和2年版(2020)』多摩市企画政策部企画課／編集 多摩市企画政策部企画課 2021 (Kウ 351)



多摩に移るまでの渡辺茂男さん

『もりのへなそうる』²の生みの親である渡辺茂男さんは、昭和3(1928)年3月20日静岡県静岡市で生まれました。英語が好きだったことが縁となり、昭和26(1951)年にアメリカの教育援助を受け、慶応義塾大学日本図書館学校へ入学、昭和28(1953)年児童図書館研究会の設立に寄与します。昭和29(1954)年夏には奨学金を得てアメリカに渡りました。修士課程終了後、ニューヨーク公共図書館に児童図書館員として採用されます。こうして、アメリカ児童文学黄金期の子どもの本にふれ、作り手たちとも交流を持つことになります。

昭和32(1957)年帰国後は、母校の専任講師をしつつ、石井桃子主宰の勉強会に参加した縁から、昭和34(1959)年に初の訳書『アメリカ童話集』³を上梓、同年10月の雑誌『母の友』に初の創作「へそまんじゅう」⁴(のちの『へそもち』⁵)を執筆します。そうして、児童書の研究と翻訳や創作を行う児童文学作家の人生を歩みはじめました。昭和36(1961)年は雑誌『こどものとも』に『とらっくとらっくとらっく』⁶、昭和38(1963)年からは『エルマーのぼうけん』シリーズ⁷と次々に活躍されます。

² 『もりのへなそうる』 わたなべしげお／さく やまわきゆりこ／え 福音館書店 1980 (91.T 77)

³ 『アメリカ童話集』 渡辺茂男訳 あかね書房 1959 (未所蔵)

⁴ 雑誌『母の友』 1959年10月号(未所蔵)

⁵ 『へそもち』 渡辺茂男／さく 赤羽末吉／え 福音館書店 1980 (E 7)

⁶ 『とらっくとらっくとらっく』 渡辺茂男著 山本忠敬画 福音館書店 1961 (E 15)

⁷ 『エルマーのぼうけん—童話—』 ルース・スタイルス・ガネット／さく ルース・クリスマン・ガネット／え わたなべしげお／やく

児童図書研究会／編集 福音館書店 1963 (92 姉)



渡辺茂男さんと多摩の出会い

昭和 40 (1965) 年秋、渡辺茂男さんは妻子とともに東京都南多摩郡多摩町 (現在の多摩市) の桜ヶ丘へ越してきました。

著書『心に緑の種をまく』⁸では、当時の様子を回想されています。

『聖蹟桜ヶ丘の駅前から田んぼにはさまれた道路を経て、未舗装の蛇行する急な坂道をのぼると、丘の上に、分譲地が造成されていました。なだかな斜面を利用して整然と区画されているとはいえ、地肌をむき出しにした階段状の広大な敷地は異様な眺めでした。(中略) 引越しの片付いた夜半、真っ暗な戸外にでると、空には星がいっぱいでした。星空の下に多摩丘陵がひっそりと横たわり、どこからともなく、^{おおかみ}狼の遠ぼえのような犬の鳴き声が聞こえてきました。』

この文章の後、『多摩のかたりべ』⁹に収集されている多摩の昔話「^{おおかみやと}狼 谷戸」をこの夜に知っていたら、『恐ろしさに震えあがっていたことでしょう』と書かれています。

また、『「一般家庭の電話は関戸橋のこちら側は、当分見込みがありません」といわれました。そういうことなので多摩農協から有線電話を引いてもらいました。(中略) 農協が開いていない時間には、電報がいちばん早い通信手段でした。』⁸とあります。

⁸ 『心に緑の種をまく』 渡辺茂男／著 新潮社 1997/2007 92-95 頁(995)

⁹ 『多摩のかたりべ』井上正吉／著 遠藤貴子／挿絵 多摩市 1979 (Kウ 388.1)

現在は個人で携帯電話を持ち、街も賑やかになっていますが、
当時は途上中で夜も深かったことがよくわかります。

多摩ニュータウン開発前に越してきた渡辺茂男さんは、多摩という土地で暮らしながら、家族で過ごす時間や育っていく息子たちの姿を通して、たくさんのすてきな物語を紡ぎだして이었습니다。

そのうちの 하나가『もりのへなそうる』(1971)¹⁰です。幼い兄弟、てつたくんとみつやくんがお弁当を持って近くの森へでかけては、おもしろいことに会おうという話で、多摩丘陵が舞台です。この作品ができたきっかけは絵本『もりのなか』¹¹と、夕食前に渡辺茂男さんが、息子 2 人(当時5歳と3歳)を連れて、雑木林を散歩したことだったそうです。昭和40年代当時はたくさんの雑木林が残っていたようで、歩きながら、堆肥用の稲わらが積み上げてあれば掘り返してみたり、近所の農家で本物の焼き芋をさせてもらったり、モグラに出会ったり。そんな『初めての体験をする子どもたちの様子は、私にとっては「へなそうる」そのものでした。』¹²と渡辺茂男さんは語っています。



<多摩桜ヶ丘 越してきたころ>

昭和40(1965)年頃

渡辺茂男さんご本人が

撮影された1枚です。

ご自宅の近くの風景でしょうか。

まだ桜ヶ丘も家がまばらな様子がよくわかります。

(渡辺茂男さん撮影)

¹⁰ 『もりのへなそうる』 わたなべしげお／さく やまわきゆりこ／え 福音館書店 1980 (91.T 79)

¹¹ 『もりのなか』 マリー・ホール・エッツ／ぶんえ まさきりこ／やく 福音館書店 1974 (E.A)

¹² 『心に緑の種をまく』 渡辺茂男／著 新潮社 2007 240-241 頁 (995)

「太陽と緑に映える都市」多摩市誕生

昭和46(1971)年11月1日に誕生した多摩市に、昭和48(1973)年8月図書館本館が開館します。

渡辺茂男さんは、著書『幼年文学の世界』¹³に当時の様子を次のように記しています。

『わたしの住んでいる多摩市でも市民センターの中に図書館が開設されましたが、児童室だけは、いつ行っても書棚がほとんど空の状態なのです。わたしは、この児童室は、書棚だけで開室されてしまったのかと疑ったほどに、初日から五、六千冊の子どもの本のすべてが、子どもたちによって借りだされてしまったのです。カウンターに群がっている子どもたちは、返される本をまって、その場からまた借りていってしまうのです。』

いかに子どもたちに求められて図書館が開館したかが伝わるエピソードではないでしょうか。



<図書館本館 開館したころ>

昭和48(1973)年頃¹⁴

¹³ 『幼年文学の世界』 渡辺茂男／著 日本エディタースクール出版部 1980 208-209頁(991)

¹⁴ 『たま広報縮刷版 昭和47年(73号)～51年(165号)(1972)』 多摩市企画部秘書広報課編集 多摩市 1980 (Kウ318.5)

翌49(1974)年3月には、図書館利用の不便な地域のため、自動車図書館「やまばと号」が市内20か所を定期的に運行し始めます。昭和54(1979)年10月、ニュータウンに初めて諏訪図書館が開館し、56(1981)年6月には東寺方図書館、57(1982)年5月には豊ヶ丘図書館と相次いで開館します。昭和59(1984)年8月には、より多くの市民が利用できるよう聖蹟桜ヶ丘駅前ビル内に、他の図書館より平日の開館時間が延長された関戸図書館が開館しました。

その頃の渡辺茂男さんはといいますと、「すぐれた子どもの本をとおして国際理解と世界の平和に貢献する」という理念に共鳴して、昭和49(1974)年に仲間とともにIBBY(国際児童図書評議会)¹⁵の日本支部であるJBBY(日本国際児童図書評議会)を設立します。発足の2年後には日本支部は国際理事国、渡辺茂男さんは国際理事に選出されました¹⁶。昭和50(1975)年に母校図書館情報学科教授を辞し、以来、作家活動と併せて、国内外で子どもの本の出版と普及に尽力します。昭和61(1986)年アジア初『子どもの本世界大会—第20回IBBY東京大会』大会実行委員長として、ミヒヤエル・エンデらの基調講演をはじめ、50か国826名の代表者を得て成功に終わらせ、マスコミを通じ、子どもの本と読書に社会の大きな関心を集めます¹⁷。

¹⁵ IBBY((International Board on Books for Young People /国際児童図書評議会)1953年スイスで設立された非営利団体。現在、80の国と地域が加盟しています。

¹⁶ 『JBBY』10周年記念特別号 日本国際児童図書評議会 1984 6-7頁 (未所蔵)

¹⁷ 『なぜ書くか、なぜ読むか—1986年子どもの本世界大会』 日本国際児童図書評議会 1987 (未所蔵)

多摩市では、昭和 49(1974)年 6 月小田急多摩線が永山駅まで開通、同年 10 月、京王相模原線が多摩センター駅まで開通。翌 50(1975)年 4 月には、小田急多摩線も多摩センター駅まで開通。昭和 55(1980)年 4 月には、多摩センター駅に 19 か所の発着所を備えたバスターミナルが完成します。同年 10 月 1 日の人口は 9 万 3242 人¹⁸でした。また、昭和 61(1986)年に、農村からニュータウンへと転換した多摩市の産業復興として企業誘致が開始、多数の企業が進出してきます。

渡辺茂男さんは昭和53(1978)年に書かれた『絵本の与え方』¹⁹の冒頭では、この 10 年間に急速に進んだ開発を『ちいさいおうち』²⁰に例えています。そして、子どもたちから、太陽と新鮮な空気と土そして「子どもたちの時間」を取りあげてしまったことを悲しみ、せめて、空間の広がりを感じずる気持ちのゆとりを与えてほしいとしていました¹⁹。また、昭和 63(1988)年多摩市の広報誌『グラフィきいき TAMA』第 7 号²¹のインタビューでは、『私は多摩の丘陵が、一時期砂漠になり、そしてふたたび、緑にかこまれた町に甦える姿を目のあたりに見たわけです。それはちょうど、有名な絵本バージニア・リー・バートンの『ちいさいおうち』²⁰の物語そっくりでした。』と語っています。

渡辺茂男さんはニュータウンに住む子どもを主人公にした作品を創りだしています。『ゆかりのたんじょうび』²²『しいの木とあ

¹⁸ 『統計たま 令和 2 年版(2020)』多摩市企画政策部企画課／編集 多摩市企画政策部企画課 2021 (Kウ 351)

¹⁹ 『絵本の与え方』渡辺茂男／著 日本エディタースクール出版部 1979 i-vi 頁 (995)

²⁰ 『ちいさいおうち』ばーじにあ・リー・ばーとんとえ いしいもこやく 岩波書店 1965 (E 41)

²¹ 『グラフィきいき TAMA』第 7 号 1988 年 10 月

多摩市企画部秘書広報課編集、共同印刷 S.P.C 編集企画部編集・デザイン協力 多摩市 (Kウ 051)

²² 『ゆかりのたんじょうび』渡辺茂男／作 太田大八／絵 理論社 1983 (91.T 79)

らしの海』²³（共に 1983）と『くまたくんのえほん』シリーズ²⁴『くまくんの絵本』シリーズ²⁵です。『ゆかりのたんじょうび』は当時猛烈サラリーマンと称された父親が主人公ゆかりの誕生日にも帰ってこず寂しい思いをする話、『しいの木とあらしの海』はニュータウンに残った古いしいの木を描こうとしていた父を嵐の海で亡くしてしまう少年を主人公にした話。どちらも主人公の子どもが苦難に直面し孤独を感じる物語です。

この2作品について、『心に緑の種をまく』²⁶のあとがきで渡辺茂男さんの長男渡辺鉄太さんは『新しくはありますが、平凡で没个性的なニュータウンの中には、人生の荒波にもまれる子どもたちがいました。そして、その彼らや彼女たちが、時として非常な勇気や生命力を見せるありさまに父は深く心を揺り動かされて、これらの作品を書いたのだと思います』と考察しています²⁶。

かわって同時期に執筆した『くまたくんのえほん』シリーズと『くまくんの絵本』シリーズは、末息子をモデルにしており、実際に渡辺茂男さんの生活に密着した絵やエピソードも登場します。まさに子どもたちの視点で描かれた明るく楽しい作品です。

渡辺茂男さんは移り変わる多摩の中で、置かれている状況に苦しむ子どもがいることに悩みながらも、太陽と新鮮な空気と土を感じながら楽しむ子どもの生き生きとした姿にすばらしさを感じとっていたのではないかと読み取ることができます。

²³ 『しいの木とあらしの海』 渡辺茂男／作 太田大八／絵 理論社 1983（91.T 77）

²⁴ 『くまたくんのえほん』シリーズ わたなべしげお／さく おおともやすお／え あかね書房 1978-1989（E.マ）

²⁵ 『くまくんの絵本』シリーズ わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え 福音館書店 1986-1989（E.A）

²⁶ 『心に緑の種をまく』 渡辺茂男／著 新潮社 2007 398-399 頁（995）



平成と渡辺茂男さんと多摩市

図書館施設の充実と配置は進み、平成7年に聖ヶ丘図書館、平成9(1997)年4月には複合施設「ベルブ永山」とともに永山図書館が開館し、諏訪図書館は閉館します。平成16(2004)年3月には「やまばと号」運行が終了しました。昭和48(1973)年に開館した図書館本館は耐震上の問題から、平成20(2008)年3月に市役所内に行政資料室、旧西落合中学校跡地に図書館本館を移転しました。平成23(2011)年4月には、唐木田図書館が開館、現在の7館1分室となります。

平成12(2000)年1月には多摩都市モノレール多摩センター駅が開業します。

そして平成15(2003)年、多摩市の6割の面積を覆い、多摩市域内のニュータウン計画区域内の農家の営農継続を断念させた公的な多摩ニュータウン開発は終了しました。

渡辺茂男さんは著書『心に緑の種をまく』²⁷の中に、この頃的心情を書かれています。

『手際よく整備された公園を伝い歩くと、雑木林をぬって昔の林道や谷戸の小道が遊歩道として再生し、初夏には若葉におせ、冬には散り敷いた落葉をふみしめながら歩くことができます。たしかに空の青さは薄れ、多摩川の水は汚染され、大栗川にザリガニはいなくなりましたが、多摩の自然が生きているのを感じます。(中略)それでも多摩市は、自然と文化的環境に恵まれた

日本一のニュータウンで、現在も子育てに最適の町だと、私は思います。』²⁷

このように多摩ニュータウンの現在をとらえた渡辺茂男さんの視点を、同書のあとがきで長男渡辺鉄太さんは『児童文学者ならではの感受性だと思ひ、父のまなざしの優しさ故だと思ひます』と書いています²⁷。

渡辺茂男さんは平成 12(1999)年より、慶應義塾大学時代の教え子の福本友美子さんに誘われ『おさるのジョージ』シリーズ²⁸の翻訳にかかります。また、「スモールさん」シリーズ²⁹、『きかんぼのちいちゃいもうと』シリーズ³⁰、『グラマトキーののりものどうわ』シリーズ³¹などは、新版や改訂が行われました。長く愛されて、今もかわらず熱心な読者が多くいるという証拠でしょう。創作は『ふしぎなおはなし』(2003)³²、翻訳は『さとうねずみのケーキ』(2006)³³が最後の作品でした。

渡辺茂男さんは、大人が描いた理想の生活の中で新たな苦難を抱える子どもたちを見つめ、思う存分自然とふれ合うことができなくなった子どもたちに寄り添い続けました。すぐれた絵本は、大人が芸術に感動するのと同じように子どもの心をとらえて、子どもの世界をひろげる手がかりとなると考え、生涯で約 300冊の翻訳や創作と児童文学の国際交流に尽力しました。

²⁷ 『心に緑の種をまく』 渡辺茂男／著 新潮社 2007 98-99 頁、403 頁(995)

²⁸ 『おさるのジョージ』シリーズ M.レイ／原作 H.A.レイ／原作 渡辺茂男／訳 岩波書店 1999-2003 (E 枡)

²⁹ 「スモールさん」シリーズ ロイス・レンスキー／ぶん・え わたなべしげお／やく 福音館書店 2005

³⁰ 『きかんぼのちいちゃいもうと』シリーズ ドロシー・エドワーズ／さく 渡辺茂男／やく 福音館書店 2005 (92 ト)

³¹ 『グラマトキーののりものどうわ』シリーズ ハーディー・グラマトキー／さく わたなべしげお／やく 学研 2005 (92.T ㌔)

³² 『ふしぎなおはなし』 渡辺茂男／作 高良真木／画 古今社 2003 (E ㌔)

³³ 『さとうねずみのケーキ』ジーン・ジョン／ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム／え わたなべしげお／やく アリス館 2006 (92.T ㌔)



この先も多摩市とともに

昭和 33 (1958) 年に児童文学作家の道を歩みはじめてから、約 50 年間、約 300 冊の執筆と国際協力を行った渡辺茂男さんは、41 年間多摩町のころから住み続けた多摩市で平成 18 (2006) 年 11 月 18 日 78 歳で逝去されました。

多摩市立図書館では、長男渡辺鉄太さんからの申し出により多数の蔵書や愛用された机等の寄贈を受け、平成 26 (2014) 年 4 月本館内に「へなそうるのへや」を開設しました。

東京都は、平成 30 (2018) 年 2 月に 2040 年代の社会変化を見据えた『多摩ニュータウン地域再生ガイドライン』³⁴を公表し「豊かな緑の中で安心して住み働くことができる持続可能なまちの実現」に向けて、老朽化した建物のリニューアルなど、再開発計画に取り組んでいます。

多摩市は、令和 3 (2021) 年 11 月 1 日に市制施行50周年を迎えます。9 月 1 日現在の人口は 14 万 8065人³⁵でした。

令和 5 (2023) 年 5 月開館予定の中央図書館には「へなそうるのへや」を継承した展示スペースを設える予定です。また、現在でも渡辺茂男さんが手掛けた約 80 冊は入手が可能です。

子どもを笑顔にする渡辺茂男さんの作品は、これからも親から子へ、子から孫へと読み継がれていくでしょう。

³⁴ 『多摩ニュータウン地域再生ガイドライン』 東京都都市整備局市街地整備部多摩ニュータウン事業室／編
東京都都市整備局市街地整備部多摩ニュータウン事業室 2018 43-44 頁 (K1518.8)

³⁵ 『たま広報』1411号 令和3年9月20日 多摩市

<参考文献>

()内は請求記号です

- ・『アメリカ童話集』 渡辺茂男訳 あかね書房 1959 (未所蔵)
- ・『絵本の与え方』 渡辺茂男／著 日本エディタースクール出版部 1979 (995)
- ・『エルマーのぼうけん-童話-』 ルース・スタイルス・ガネット／さく ルース・クリスマン・ガネット／え わたなべしげお／やく 児童図書研究会／編集 福音館書店 1963 (92 カ)
- ・『おさるのジョージ』シリーズ M.レイ／原作 H.A.レイ／原作 渡辺茂男／訳 岩波書店 1999~2003 (E 卅)
- ・『きかんぼのちいちゃいもうと』シリーズ ドロシー・エドワーズ／さく 渡辺茂男／やく 福音館書店 2005 (92 ト)
- ・『くまのえほん』シリーズ わたなべしげお／さく おおともやすお／え あかね書房 1978~1989 (E ㌿)
- ・『くまの絵本』シリーズ わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え 福音館書店 1986~1989 (E.A)
- ・『グラフィック TAMA』 第7号 1988年10月
多摩市企画部秘書広報課編集、共同印刷 S.P.C 編集企画部編集・デザイン協力 多摩市 (Kウ 051)
- ・『グラマトキーののりものどうわ』シリーズ ハーディー・グラマトキー／さく わたなべしげお／やく 学研 2005 (92T ㌿)
- ・『心に緑の種をまく』 渡辺茂男／著 新潮社 1997/2007 (995)
- ・『この本読んで!-絵本と読みきかせの情報誌-2016 冬』 出版文化産業振興財団 メディアパル 2016 (996)
- ・『さとうねずみのケーキ』 ジーン・ジオン／ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム／え わたなべしげお／やく アリス館 2006 (92.T ㌿)
- ・『いいの木とあらしの海』 渡辺茂男／作 太田大八／絵 理論社 1983 (91.T ㌿)
- ・『児童サービスの歴史』 汐崎順子／著 創元社 2007 (016.28)
- ・『すばらしいとき-絵本との出会い-』 渡辺茂男／著 大和書房 1984 (995)
- ・『「スモールさん」シリーズ ロイス・レンスキー／ぶん・え わたなべしげお／やく 福音館書店 2005 (E ㌿)
- ・『たま広報 1405号 令和3年6月20日』 多摩市
- ・『多摩市史 通史編2』 多摩市史編集委員会／編集 多摩市 1999 (Kウ 213.6)
- ・『多摩市の図書館 令和元年度』 多摩市立図書館／編集 多摩市立図書館 2020 (Kウ 016.2)
- ・『多摩ニュータウン地域再生ガイドライン』 東京都都市整備局市街地整備部多摩ニュータウン事業室／編 東京都都市整備局市街地整備部多摩ニュータウン事業室 2018 (K1 518.8)
- ・『多摩のかたりべ』 井上正吉／著 遠藤貴子／挿絵 多摩市 1979 (Kウ 388.1)
- ・『ちいさいうち』 ばーじにあ・リー・ばーとんとんぶんとえ いいももこやく 岩波書店 1965 (E ㌿)
- ・『統計たま 令和2年版(2020)』 多摩市企画政策部企画課／編集 多摩市企画政策部企画課 2021 (Kウ 351)
- ・『とらっくとらっくとらっく』 渡辺茂男著 山本忠敬画 福音館書店 1961 (E ト)
- ・『なぜ書くか、なぜ読むか-1986年子どもの本世界大会』 日本国際児童図書評議会 1987 (未所蔵)
- ・『日本の絵本-昭和期の作家たち-』 吉田新一／著 朝倉書店 2020 (995)
- ・『ふしぎなおはなし』 渡辺茂男／作 高良真木／画 古今社 2003 (E ㌿)
- ・『へそもち』 渡辺茂男／さく 赤羽末吉／え 福音館書店 1980 (E ヲ)
- ・『もりのへなそうる』 わたなべしげお／さく やまわきゆりこ／え 福音館書店 1980 (91.T ㌿)
- ・『もりのなか』 マリー・ホール・エッツ／ぶんえ まさきりこ／やく 福音館書店 1974 (E.A)
- ・『ゆかりのたんじょうび』 渡辺茂男／作 太田大八／絵 理論社 1983 (91.T ㌿)
- ・『幼年文学の世界』 渡辺茂男／著 日本エディタースクール出版部 1980 (991)
- ・雑誌『こどもとしょかん』2014年秋号 東京子ども図書館
- ・雑誌『児童文学世界 [91 夏号]』 多関口安義／[ほか]編集 中教出版 1991 (994 ㌿)
- ・雑誌『母の友』 1959年10月号 (未所蔵) 1978年7月号 (未所蔵) 2007年10月号 福音館書店 (994 ㌿)
- ・雑誌『JBBY : Japanese Board on Books for Young People. 』10周年記念特別号 (未所蔵)
- ・雑誌『JBBY : Japanese Board on Books for Young People. 』71号-85号 日本国際児童図書評議会 1994-1997 (未所蔵)

<写真出典>

- ・『たま広報縮刷版 昭和47年(73号)~51年(165号) (1972)』 多摩市企画部秘書広報課編集 多摩市 1980 (Kウ 318.5)



2007 2006 2005 2004 1998 1996 1995 1994 1991

- 〈63 歳〉妻一江死去。
- 〈66 歳〉『月夜のじどうし』で講談社出版文化賞を受賞。
長男鉄太に初孫娘の鼓子(こ)が生まれる。
- 〈67 歳〉次男光哉に孫娘南々帆(ななほ)が生まれる。
- 〈68 歳〉渡辺邦子と再婚。
- 〈70 歳〉『あんよはじょうず』(福音館書店)出版。
- 〈76 歳〉メルボルンを訪問、鉄太の博士号授与式に参列。
- 〈77 歳〉『キウイじいさん』(クレヨンハウス)出版。
- 〈78 歳〉さとうねすみのケーキ(アリス館)出版。
最後に手掛けた翻訳絵本となる。
多摩市内の病院で逝去。(11月18日)
- 「渡辺茂男、お別れの会」が開かれ、
前日に『心に緑の種をまく』(新潮社)が出版される。



©Yuriko Yamawaki 1971.



『心に緑の種をまく』
渡辺茂男/著 渡辺鉄太/付記
新潮社



『さとうねすみのケーキ』
ジーン・ジオン/ぶん
マーガレット・ブローイ・グレアム/え
わたなべしげお/やく
アリス館



『キウイじいさん』
渡辺茂男/ぶん 長新太/え
クレヨンハウス



『あんよはじょうず』
わたなべしげお/ぶん
ちようしんた/え
福音館書店



『月夜のじどうし』
渡辺茂男/文 井上洋介/絵
講談社



『どうすればいいのかな?』
わたなべしげお/ぶん
おおともやすお/え
福音館書店

1986

- 〈58 歳〉IBBY世界児童図書評議会世界大会の大会委員長を務める。

1980

- 〈52 歳〉第15回モービル児童文化賞受賞。

1977

- 〈49 歳〉IBBY国際児童図書評議会副会長に選出される。
『どうすればいいのかな?』(福音館書店)〈くまのえほん〉出版。

1975

- 〈47 歳〉慶応義塾大学を辞職し著作活動に専念する。
三男光太誕生。

2000年

1990年

1980年

2021 2020 2011 2008

- 市制施行 50周年。
- 「多摩市立図書館本館再整備基本・実施設計」完了。
- 市制施行 40周年。
- 図書館本館、旧西落合中学校跡地に移転。

2001 2000

- 市制施行 30周年。
- 多摩市立温水プール「アクアブルー多摩」オープン。
多摩都市モノレール多摩センター駅〜上北台駅(東大和市)間開通。

1997

- 市民のひろば「ヘルプ永山(永山図書館、市立公民館等)」がオープン。

1991 1990 1988 1986 1984 1982 1981 1979 1977 1975

- 市制施行 20周年。
- 京王相模原線多摩センター駅〜橋本駅間開通。
京王相模原線多摩センター駅〜唐木田駅間開通。
小田急線多摩センター駅〜唐木田駅間開通。
- 市制施行 15周年。
- 関戸こども分館閉館、関戸図書館開館。
- 市制施行 10周年。東寺方図書館開館。
- 人口 10万人突破。豊ヶ丘図書館開館。
- 諏訪図書館開館。
- 多摩市立図書館関戸こども分館開館。
- 小田急多摩線小田急永山駅〜小田急多摩センター駅間開通。

わたなべしげお 渡辺茂男さん年表

0 歳 3月20日 静岡県静岡市に生まれる。 12人兄弟姉妹の上から4番目。

21 歳 米軍占領軍CIE図書館長が開く英会話クラスで英語を学ぶ。

23 歳 CIE図書館のスタッフになる。
慶應義塾大学日本図書館学校に入学。石井桃子らと知り合う。

25 歳 慶應義塾大学文学部図書館学科卒業、助手として同大学に勤務。
児童図書館研究会設立に寄与する。

26 歳 フルブライト奨学金を得て渡米。
オハイオ州ウエスタンリザーフ大学大学院に学ぶ。

27 歳 ニューヨーク公共図書館児童部に勤務。

29 歳 アメリカ留学より帰国、子どもの本の勉強会「いすみ会」に参加。
松居直、瀬田貞二、いぬいとみこ、鈴木晋一らと知り合う。
慶應義塾大学文学部図書館学科講師(1969年教授)。

30 歳 永原一江と結婚、保谷市に転居。

31 歳 『アメリカ童話集』(あかね書房 翻訳出版。(初出版本)
『へそまんじゅう』雑誌『母の友』に掲載。(創作の処女作)

32 歳 『子どもと文学』(共著・中央公論社) 出版。

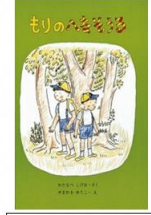
34 歳 長男鉄太誕生。

35 歳 『しょうぼうじどうしゃじぶた』(福音館書店)を発売。
『エルマーのぼうけん』(福音館書店)を翻訳。

36 歳 次男光哉誕生。
『どろんこハリー』(福音館書店)を翻訳。

37 歳 多摩市(当時は南多摩郡多摩町)の桜ヶ丘に転居。

41 歳 『寺町三丁目十一番地』が第11回 児童福祉文化賞(厚生大臣賞、第17回サンケイ児童出版文化賞を受賞。
43 歳 家族連れでアメリカとイギリスに半年ずつ滞在。
米国ウエスタンミシガン大学客員教授。シカゴ大学、イリノイ大学、ロンドン大学、ウエールズ大学などで研究および講義。
『もりのへなそらる』(福音館書店 出版。



『もりのへなそらる』
わたなべしげお/さく
やまわきゆりこ/え
福音館書店



『どろんこハリー』
ジーン・シオン/ぶん
わたなべしげお/やく
マーガレット・ブローイ・クレアム/え
福音館書店



『エルマーのぼうけん』
ルース・スタイルス・ガネット/さく
ルース・クリスマン・ガネット/え
わたなべしげお/やく
福音館書店



『しょうぼうじどうしゃじぶた』
渡辺茂男/さく 山本忠敬/え
福音館書店

1900年

たまし 多摩市年表

1889 町村制施行により、旧8か村及び2か村飛地合併し
『多摩村』となる。
1925 玉南電鉄府中〜東八王子(現在の京王八王子)間が開通し
『関戸駅』ができる。
全村に電灯がつく。
1937 関戸橋開通。京王線『関戸駅』から『聖蹟桜ヶ丘駅』
に改名。

1950年

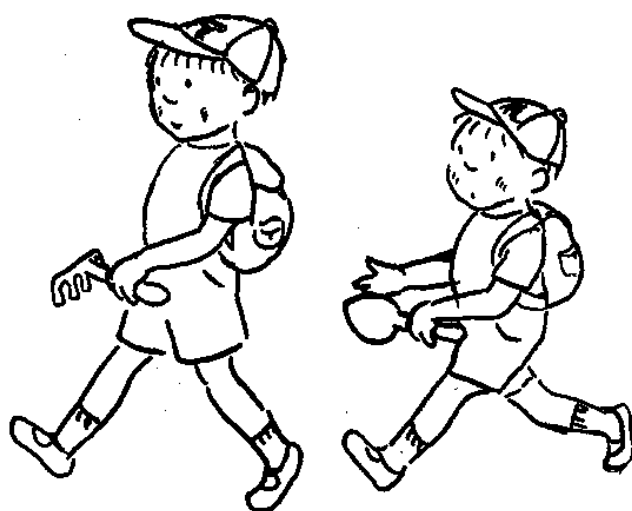
1953 多摩村立国民健康保険診療所が開設。
1955 連光寺下河原地区、府中に編入。
1956 京王電鉄、桜ヶ丘地区の用地買収開始。
京王バス、聖蹟桜ヶ丘駅〜落合中沢線の運行を開始。

1960年

1960 京王桜ヶ丘地区の宅地造成工事開始。
1963 京王線特急運転開始『聖蹟桜ヶ丘駅』停車駅となる。
1964 町制施行『多摩町』となる。
1967 新住宅市街地開発法による多摩ニュータウン計画決定。
多摩ニュータウン宅地造成工事本格的に始まる。

1970年

1971 市政施行『多摩市』となる。 11月1日
多摩ニュータウン第一次入居開始。
市立図書館本館開館。
1973 自動車図書館『やまばと』運行開始。
小田急多摩線新百合ヶ丘駅〜小田急永山駅間開通。
京王相模原線京王よみうりランド駅〜京王多摩セン
ター駅間開通。



©Yuriko Yamawaki 1971.

第10回 へなそうるのへや 企画展示
『渡辺茂男と多摩市の50年～未来につづけ緑の種～』

多摩市立図書館／編集・発行

令和3年10月5日